

「ふるさと教育」を通じた地域連携と体験活動の充実

北海道利尻高等学校 学級数 5 (校長 小林 洋介)

□ 実践の概要

本校では、「ふるさと教育」を通して、生徒がこれからの変化の激しい社会を支える一員として、他者と協働しながら課題の解決を模索し、新たな価値を創る人材となることを目指して、地域の課題解決や社会貢献のための活動を推進している。

1 実践の目的

平成 28 年度より「ふるさと教育」を再構築し、体験的な学びを通じて「ふるさと利尻島」の魅力を理解し、その魅力を伝えることができるようになることや、「ふるさと利尻島」を愛し、誇りに思う気持ち、変化する社会の中で広い視野をもちながら、たくましく生きていく力を身に付ける。



【全島一周】

2 実践内容

(1) 実施計画

「ふるさと教育」は、校内組織である「ふるさと委員会」が主体となり、関係分掌と日常的に連携しながら、1年間の学習計画を立案し、プログラムを作成している。年度始めに「ふるさと教育」、「総合的な探究の時間」のオリエンテーションを生徒に行い、実践内容について具体的なイメージをもたせている。



【ドリンク提供】

(2) 取組の具体

① 保護者や地域と連携した「全島一周」、「利尻山登山」

利尻島一周マラソンでは、生徒は各々の体力に合わせて、「一周 53.7 kmコース」、「14.1 kmコース」、「1日ボランティア」から希望する部門を選択し、参加している。2021 年からは、生徒が利尻の魅力を PR するエイドドリンクを考案し、大会に参加するランナーにおもてなしする活動にも取り組んでいる。

利尻山登山は、地元利尻山岳会員や町の多くの人たちの協力を得ながら、「頂上コース」、「第1展望台コース」、「ボランティア」に分かれ、学年ごとにグループを編成して、仲間と協力しながら取り組んでいる。



【利尻山登山】

② 各授業を通じて利尻島について探究活動を行う「ふるさと学習」

各学年の教科・科目の授業の中で「ふるさと利尻」に関する教育活動を実践している。また、総合的な探究の時間では、「島の駅再生プランの検討」、「利尻礼文サロベツ国立公園指定 50 周年イベントへの参画」等、ふるさと利尻への愛着・誇りを醸成する体験的で探究的な取組の中で、地域の人々との関わりを重視し、コミュニケーション能力、課題解決能力を育てている。

③ 地域行事への参加やボランティア活動を主体とした「ふるさと貢献」

海岸清掃活動のほか、地域のお祭り等、島の様々な行事において、手伝いや出演者として参加するなどして、地域貢献の意識を高める活動を推進している。



【海岸清掃】

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

各種行事の実施後に行ったアンケート結果からは、生徒が、保護者や地域住民との関わりを通して自己有用感を高めるとともに、地域の魅力の新たな発見につなげることができた。今後は、活動を通じた学びや気付きを整理し、生徒にフィードバックする必要がある。

(4) 改善後の取組

今年度の実践内容について、関係部署で次年度に向け工夫・改善案を検討している。探究活動での学びについては「成果発表会」を実施し、活動に関わってくださった地域の方々から評価を得ながら、地域の課題解決や社会貢献のための活動を推進していく。

3 実践のポイント

- ・地域の豊富な教育資源を生かした取組を通し、特色ある学校づくりを推進していること。
- ・体験的で探究的な取組を実践し、地域の人々と多く関わりをもたせることで、コミュニケーション能力、課題解決能力を育成することができたこと。